

NEWS LETTER



京都教育大学

Kyoto University of Education

第17号(2014. 3. 24)

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

第84回国立大学教育実践関連センター協議会及び「科研：学び続ける教師」報告

第84回国立大学教育実践研究関連センター協議会が2月18日に東京学芸大学で開催されました。部門会議(教育実践・教育部門)では、本学の特色ある取り組みとして「学校運動部活動指導者育成事業」について講演し、事業推進に役立つ多くの意見を頂きました。また、センター協議会に先立って行われた、教育実践部門・科研「自律的に学び続ける教師の核となる資質・能力の解明と質保証に関する研究」経過報告会に出席しました。そこでは、学び続ける教師への資質能力の拡大において、「学びの場」が重要であること、教師研究のキー概念として「感情」があり、感情の上昇(回復)につながる学びの契機の事例検討が重要になるということなどの提案がありました。下記に、これらに関する概要(当日資料を基に別途作成)を紹介します。加えて、もう一つのテーマであった「実務家教員から見た大学の教員養成に対する意見」についても記載します。(文責、小山宏之)

学び続ける教師の「学び」の特質に関する事例研究(姫野先生@秋田大学)

教員養成の動向

ミッション再定義
卒業生の力量向上と質保証
「**学び続ける教員像**」の重視(中教審答申, 2012)

学び続ける教師を育てるために...

- 1) 加算的教師モデルは限界がある
○+□+△+... 授業や研修が増えても高度化しない
- 2) リフレクションだけでは教師の学びにつながらない
教師は苦行ではない、学び続けている教師は楽しそう
- 3) 教師の学びに対する姿勢は変化する
環境によって、学んだり、学ばなくなったりする
- 4) PDCAサイクルで教師の成長は促せない場合もある
経験から学べる/学べない教師がいる

事例報告

◇インタビュー調査
X県の現職校長1名
インタビューの視点(3点の関連)

個人の資質・能力(学ぶ力)

学び続ける教師

個人を取り巻く環境(学び続ける条件)

モデルの提案

資質能力の拡大ではなく、**学ぶ状態**を作ることの重要性

教員スタンダードやディプロマポリシーの作成
教職実践演習で質保証

学び続ける教員の育成につながっているのか??

教育実践演習のみでの質保障は難しい
求められる事柄が増えるほど授業が増えている?
「**学ばされ続ける教師**」がてきあがる!?

そもそも、**学び続ける教師とは?**
学びの特質とは??

教師が経験から学ぶ条件モデル(仮) 発表資料より

教師研究のキー概念(島田先生@高知大学)

「学び続ける教師」に関わるキー概念

- 信念, アイデンティティ
- 感情
- レジリエンス
- ナラティブ(語り)

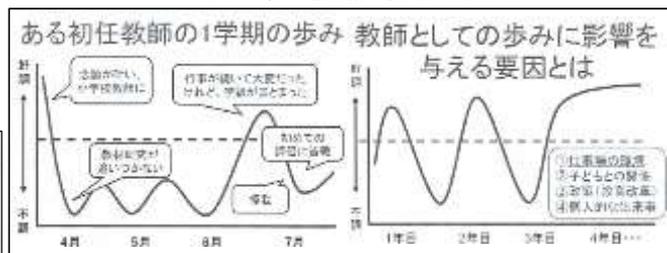
教師の行動と感情の関係



ネガティブな経験 = 失敗、とまどい、葛藤
・若手教師: キャリアスタート時の悩み
・中堅教師: 異動時における経験不適合
・熟練教師: 自身の経験が通用しない

どの世代においてもネガティブは生じている

教師の歩みと感情の変化 発表資料より



レジリエントな教師

レジリエンス(resilience) - 弾力性, 回復力, 復元力

多様な価値観との直面, 自己認識の再構築⇒学びの契機
各場面での上昇のきっかけを探る研究, 事例から一般化へ

実務家教員から見た大学の教員養成

教育委員会と大学・学部間の交流人事教員に関する調査

- 33道府県で交流人事が実施されている
- H15年度(香川大学, 島根大学)より順次開始されている
- 派遣人数は1人から最大8人まで(1人:11大学, 2人:10大学, 3人:7大学)

教育組織および教育内容上の課題と展望

A大学の意見

- 教育課程の実効性を検証する機能を持つ組織がない
- 新課程で採用された教員の教員養成に対する意識が低い
- 教科教育担当の教員養成に関する意識の個人差
- 免許法の変更やミッションの実現に対する意識が低い教員が多い

B大学の意見

- 大学内の評価と活動内容(目標)にギャップがある
- 円滑な引き継ぎ, 継続をするためのシステムの構築

C大学の意見

- 学生の実習に対する低い意識
(学校に行って学ぶことを当たり前だと思っている)
→無断遅刻, 無断欠席, 頭髪, アクセサリー etc...
- 教職実践演習における課題
・教員, 学生双方ともに授業の意味を理解していない
- 不足していると考えられる領域や科目
・道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間の実習機会がほぼない
・小学校の英語教育, 道徳の教科化, 保護者対応, 学級経営...

留学生と地域住民との交流プログラム



平成25年度第6回は、1月22日(水)に「トルコについて」と題して、トルコからの日本語研修留学生ベルナさんにお話し頂きました。

まずはトルコの国旗の由来についてお話しされました。真っ赤な地色に月と星の形が白く表れている大変印象深く、シンプルな国旗ですが、1つの伝説として、戦いで血の海が出来、そこに月と星が写っていたこと

に由来しているとのことでした。真偽の程はわかりませんが、多くの戦いがトルコで起こった歴史を読み取ることができるようです。

また、日本とトルコとの友好関係について話されました。トルコの人々は日本が好きということはテレビなどで耳にしますが、それは明治23年に和歌山県串本沖で遭難したトルコ軍艦エルトゥールル号の乗組員を救助したことを発端に、現在まで続いているそうです。串本町にはトルコ記念館があり、ベルナさんも訪問されたことがあるそうです。

そして、トルコといえば、世界三大料理に数えられるトルコ料理。トルコは東西文化が交わる場所に位置し、そのため様々な素材が集まったため、極上の料理が出来上がったのではと考えられます。美味しそうな数々の料理を紹介して頂きました。

今年度全6回のプログラムは、無事終了致しました。次年度は、改築後の教育支援センターに新しく生まれる「ミニシアター」にて開催する予定です。



学生ボランティアについて

ボランティア活動に関して、学生に周知していただきたいこと

1. 学生が公立学校等でボランティア活動をする場合、必ず、教育支援センター内の地域支援推進室で登録するようお願いいたします。正式に大学に登録しておくこと、例えば、教員採用試験の書類作成の際に、ボランティア活動の実施について大学側で承認することができ、就職にとって有利に働く場合があります。
2. 京都府内だけでなく、さまざまな地域での多様な学校ボランティア(時間的にも)を紹介することができますので興味関心を持っている学生には、**ぜひ、一度、地域支援推進室に来室するよう**お声かけください。

【地域支援推進室/4月より「ボランティアオフィス」】

Tel 075-644-8336 Eメール sien@kyokyo-u.ac.jp

受付時間 月曜日・木曜日 11時~14時 金曜日 11時~15時 担当: 河内(かわち)

教育支援センター スタッフ

センター長(併)	水山 光春	075-644-8281	mizuyama@
教育実践連携部門	樋口とみ子	075-644-8337	tomiko@
実地教育部門(兼任)	小林 稔	075-644-8229	mkoba98@
実地教育部門(兼任)	小山 宏之	075-644-8281	koyama@
モラル・人権意識向上教育部門	関口 久志	075-644-8326	sekihis@
特任教員(京都市教育委員会)	池田 忠	075-644-8214	iked@
特任教員(京都府教育委員会)	竹花 裕子	075-644-8216	yuko627@
事務補佐員 センター全般	杉本 恭子	075-644-8335	kyoko@
事務補佐員 地域支援推進室	河内真由美	075-644-8336	sien@
教務補佐員 学校運動部活動指導者育成事業	勢井加奈子	075-644-8143	kanako@

TEL 075-644-8335 FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

